

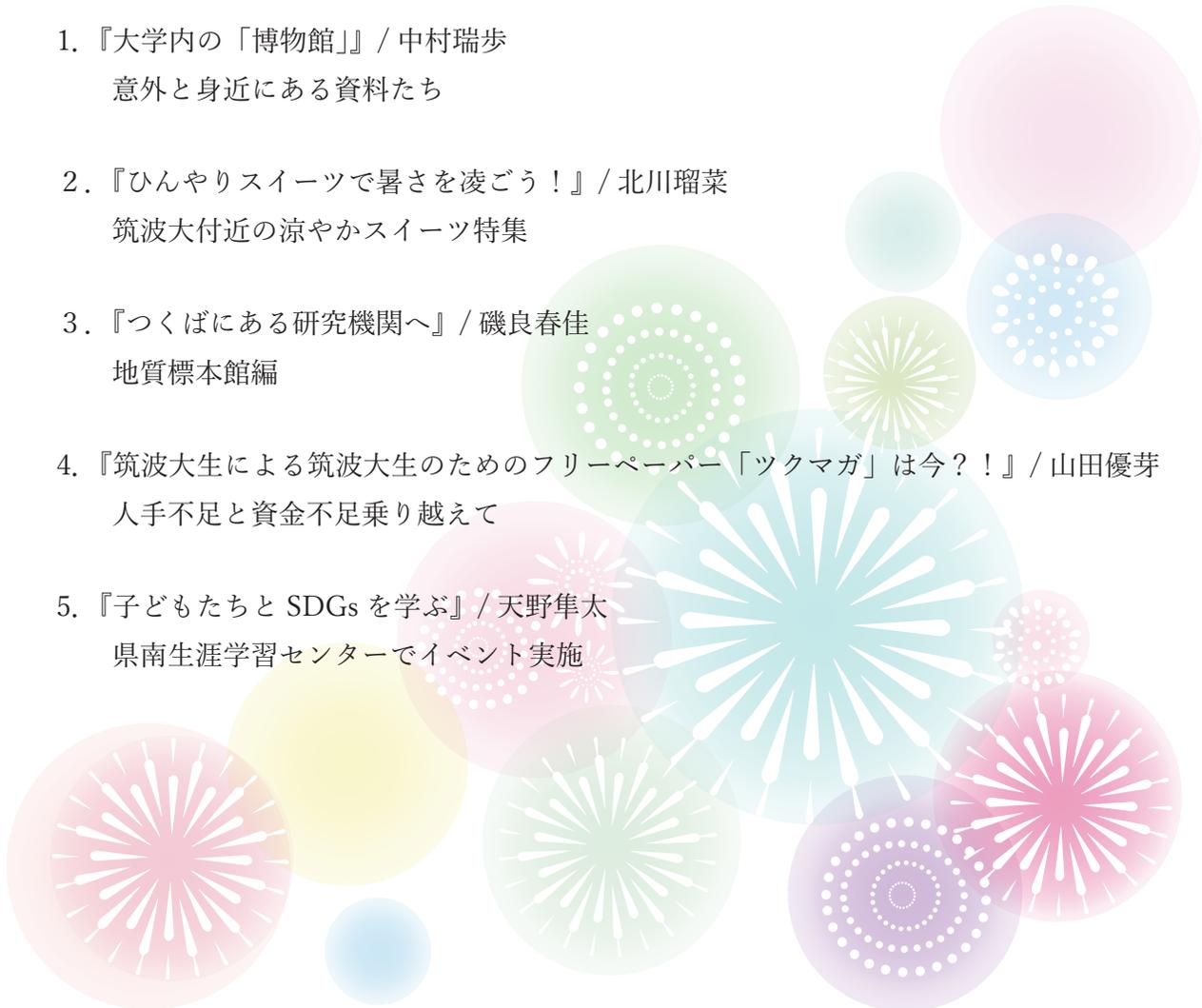


OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX



1. 『大学内の「博物館」』 / 中村瑞歩
意外と身近にある資料たち
2. 『ひんやりスイーツで暑さを凌ごう！』 / 北川瑠菜
筑波大付近の涼やかスイーツ特集
3. 『つくばにある研究機関へ』 / 磯良春佳
地質標本館編
4. 『筑波大生による筑波大生のためのフリーペーパー「ツクマガ」は今?!』 / 山田優芽
人手不足と資金不足乗り越えて
5. 『子どもたちとSDGsを学ぶ』 / 天野隼太
県南生涯学習センターでイベント実施





1. 大学内の「博物館」 意外と身近にある資料たち

突然ですが、読者のみなさまは「博物館」好きですか…？東京国立博物館や京都国立博物館のような国立の大規模なものから、地域の歴史や土器などの発掘物を展示した地元密着型の博物館、個人のコレクションを収蔵した私設の博物館…。一口に「博物館」といっても多種多様な魅力を持った博物館がありますね。しかし、種類は違えど全て「博物館」として収蔵品を魅力的に展示しています。学芸員資格の認定のために履修した「博物館実習」を通して様々な博物館を見学した去年の夏を思い出します。

夏休みにも、博物館や美術館の入館料などが割引や無料になるキャンパスメンバーズを活用して東京国立博物館を見学しようとしていた矢先、立ちほだかったのは新型コロナウイルスの第7波。少し東京に行くのはためらわれました。そこで、考えたのは身近な「博物館」巡り。それも、つくば市内・土浦市内ではなく、「筑波大学内」です。

筑波大学のなかには、いくつかの博物館があります。第一に、中央図書館の1階にある貴重書展示室、第二に人文社会学系棟の2階にある人文社会系学術展示室、第三に大学会館内の筑波大学ギャラリー・筑波大学アートスペース、最後に春日エリアの情報メディアユニオン1階の図情図書館メディアミュージアムです。このうち2022年7月30日現在、筑波大学ギャラリー・筑波大学アートスペースは新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休館となっています。そこで、今回は、中央図書館貴重書展示室に行ってみました。

中央図書館貴重書展示室は、奥まった1階の奥にあります。(貴重書展示室では、常設展「日本の出版文化」が主として行われ、時節にあったテーマに沿って展示する小特集も小さいスペースではありますが開かれています。

また、1年に一度企画展も行われます。これまで、寛永9年(1632)に狩野山雪によって描かれた儒者の肖像画『歴聖大儒像』の修復完成に際した「歴聖大儒像 儒者のまなざし」(2022年5月16日～5月27日)や、新元号「令和」への改元記念に紀年・暦法を紹介する「時を数むー紀年・暦法・元号ー」(2021年11月8日～12月3日)など筑波大学ゆかりの品の展示や時事性の高い展示が行われてきました。また、企画展では、展示だけではなく、電子展示や専門の教員の解説など総合大学である筑波大学の特色を活かした、実際の博物館さながらの興味深いイベントも行われています。

さて、常設展「日本の出版文化」を見ていきましょう。「日本の出版文化」では、「写本から版本へ」・「活版印刷の伝来」・「近世の出版文化」の3つの章になっています。全てのテーマを通底するのは、日本における出版文化の変遷と広がり。「写本から版本へ」では、筑波大学中央図書館が所蔵する『大智度論 卷70 1 卷』のパネルから展示が始まります。「大智度論」は、4世紀ごろの僧侶である鳩摩羅什(ルビ:くまらじゅう)によって訳された『大品般若経』の注釈書です。本館に所蔵され

ているのは、天平6(734)年に物部連大山によって書写されたものです。そこから、『土佐日記』や『新古今和歌集』など誰もが一度は聞いたことがある資料が、複製やパネル展示も交えられながら続きます。

個人的に興味深かったのは、「論語（天文版論語）」です。論語は、孔子の言行・問答などを集めた語録です。筑波大学に所蔵されているものは、天文2年（1533）年頃の日本で二番目に古い版が用いられ、幕末頃に出版されたものとなっています。論語といえば儒教、儒教といえば孔子ですが、筑波大学と孔子には、浅からぬつながりがあります。筑波大学の前身は、東京都文京区大塚にあった東京高等師範学校ですが、これは江戸時代に幕府直轄で建てられ幕臣・藩士などの教育が行われた学校である昌平坂学問所の跡地にありました。昌平坂学問所で教えられていたのは、儒学一派である朱子学。また、その近隣には孔子廟と呼ばれる孔子を祀る施設もありました。展示されていた「論語」もこのような縁で現在筑波大学に所蔵されているのでしょうか。ちなみに、先に紹介した特別展「歴聖大儒像 儒者のまなざし」(2022年5月16日～5月27日)のメインディッシュとして展示されていた「歴聖大儒像」も湯島聖堂における孔子やその弟子を祭る祭典『釈奠』で用いられていたものだそうです。

まだ、あと二つも見所のあるコーナーが残っているのですが、最初の「写本から版本へ」だけでかなりの紙幅を使ってしまいました。残りの2コーナーは、実際に読者のみなさまの目で見ただくとして、あと一つだけ面白かったコーナーを紹介させていただきます。それは、小特集「源平合戦を読む」です。これは、2022年1月から放送されている「鎌倉殿の13人」に合わせて企画されたのでしょうか。「鎌倉殿の13人」は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、江戸時代まで続く武士の世を作った一人である北条義時を主人公とした大河ドラマです。私も毎週手に汗握りながら見ているのですが、ドラマとしての前半の山場がみなさまもよく知っている源平合戦なのです。今回の小特集は、江戸時代の模写ではありますが、劇中でも描写されていた『玉葉』や『愚管抄』、今回の大河ドラマの脚本の元となったと言われている『東鑑』（『吾妻鏡』とも）など、タイムリーな展示となっています。『東鑑』では、劇中のターニングポイントとなっていた平家追討の令旨に関わる場面が展示されており、大河ドラマのいちファンとしてとても楽しめました。

貴重書展示室内は撮影禁止のため、文字だけの記事となってしまう大変申し訳ないです。しかし、それは見られないことによって、ご自身の目で見に行くことができる楽しみを持っていただけることにつながると信じています。残念ながら、大学図書館には学生と教職員しか入場することはできません。しかし、入場制限が解除され、もし何かの機会に大学を訪れる機会があったら、ぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(生命地球科学研究 地球科学学位プログラム2年 中村瑞歩)

2. ひんやりスイーツで暑さを凌ごう！ 筑波大付近の涼やかスイーツ特集



暑い日が続いています。自転車のサドルは目玉焼きが焼けそうなくらい熱いですし（お尻が火傷しそうです）、せっかく化粧をしても汗で崩れてしまって悲しいものです。首にかけるタイプのあの流行りの扇風機がほしいな、なんて思う今日この頃です。こんな時は、ひんやりスイーツで暑さをしのぐというのはどうでしょうか？筑波大周辺にはアイスやかき氷などを食べられるお店が複数あります。今回はその一部をご紹介しますと思います。

■茶の木村園（つくば市春日4丁目7-9）

営業時間：午前9時（かき氷は午前10時）～午後7時、休業日はこちらのサイトから確認できます→<https://www.kimuraen.gr.jp>

お茶・自家焙煎珈琲豆の専門店「茶の木村園」では日光の三ツ星氷室蔵元の天然氷を使用していかき氷を販売しています。桃が乗った「生桃」などさまざまな種類があります。詳しいメニューはこちらから見るすることができます。（<https://cloudmenuapp.com/menu/e3bcf5a2-ea33-4c5b-9296-5f717ff48b0b/top>）

新型コロナウイルス感染対策も兼ねているため、混雑の有無に関わらず順番受付の整理券発行が必要です。店頭での整理券発行と、ウェブでの整理券発行の2種類があります。店頭での発行は午前9時から午後6時まで、ウェブでの発行では午前8時から午後5時30分まで可能です。ウェブ発行は下記のリンクからでき、待ち時間・組数も確認できます（<https://airwait.jp/WCSP/storeDetail/?storeId=KR00118909>）。整理券の発行は早くにできますが、かき氷の開始自体は午前10時からとなっているのでご注意ください。※参考資料（1）のサイトや上記のウェブでの整理券発行サイトを8月22日時点で参考にしました。

実際にサークルの後輩を連れて4人で訪れてみました。事前にウェブで整理券を発行して7月末の平日午後2時ごろに行くと、待ち組数は少数でした。



桃の季節（撮影当時）ということで「生桃」が人気でした



溶ける前にと焦って撮る筆者

私は「生ぶどう」(①)を頼みました。ふわふわの氷にぶどうのシロップが絡まっています。最高でした。果実が乗っているのもテンションが上がりますね。後輩たちは「生いちご」(②)と「生桃」(③)を注文していました。生桃は桃のシロップと練乳を自分のタイミングでかけられる形式でした。自転車で木村園まで向かった時は汗だくだったのですが、かき氷を食べてひんやり涼めました。どのかき氷も美味しそうだったのでこの夏は通ってメニューを制覇したいと思います！



①生ぶどう



②生いちご



③生桃

【参考資料】

- ・茶の木村園ホームページ「天然氷のかき氷」… (1)
<https://www.kimuraen.gr.jp/view/page/kakigoori2022>
- ・茶の木村園ツイッター
https://twitter.com/kimuraen_tea?ref_src=twsrc%5Egoogle%7Ctwcamp%5Eserp%7Ctwgr%5Eauthor

■MARUZEN campus shop 大学会館売店 (筑波大 大学会館別館2階)
 営業時間：午前9時50分～午後5時 (月～金)、定休日 (土日祝) ※7月27日時点



サーティワンとエナジードリンクのボックス



④7種類のフレーバー

学内を散策しているとサーティワンのカップアイスを買える場所を発見しました。筑波大の大学会館別館2階にある丸善の売店で、300円(税込)のところ店内5%割引で285円とお得に購入できます。3A棟の丸善の売店でも販売されているそうです。今回ご紹介するのは大学会館の売店です。「オレンジソルベ」「チョップドチョコレート」「バニラ」「キャラメルリボン」「ポッピングシャワー」「ベリーベリーストロベリー」「コットンキャンディ」の7種類がありました(7月27日現在)(④)。

今回の記事の撮影を手伝ってもらった後輩に、申し訳程度に「コットンキャンディ」をご馳走しました。公式サイトで「ポップな見た目が大人気！甘くてやさしい、わたがし味のアイスクリーム」と紹介されていました、美味しそうです。話が脱線しますが、サーティワンアイスの横にエナジードリンクのレッドブルやモンスターのいかついボックスがありました。いつも多忙なエナジードリンクユーザーの後輩は「こんなに種類あったんだ」とうれしそうに見つめていました。

【参考資料】

- ・筑波大福利厚生施設案内「大学会館売店」https://kosei.sec.tsukuba.ac.jp/store/store_53
- ・サーティワンサイト「コットンキャンディ」<https://www.31ice.co.jp/contents/flavor/fl1939.html>

■N's cafe (つくば市天久保 3-13-3)

「N's cafe」(5)では、ブルーシールのアイスクリームを購入できます。ブルーシールは「アメリカ生まれ、沖縄育ちのアイスクリーム専門店」だそうです。「塩ちんすこう」「シークワサーシャーベット」など沖縄らしいフレーバーを含む全8種類から選ぶことができます(7月28日現在)。



5 N's cafeの外観、右横は弁当屋「かつ大」です

掲示されていた人気ランキング(6)では1位「アーモンドピスタチオ」、2位「ブルーウェーブ」、3位「塩ちんすこう」とのことです、これは1位を食べるべきかと思いつつ、さっぱりした味が食べたい気分だったのでシークワサーシャーベットを頼みました(期待外れですみません)。店内でも食べられますし、テイクアウトもOKでした。大きさは「ジュニア」と「レギュラー」があり、「シングル」「ダブル」「トリプル」と個数を選ぶ形式でした(7)。私はレギュラーサイズのシングルを注文して、350円でした(8)。



6 ブルーシールのランキング



7 フレーバーの種類とサイズと個数の料金表



8 初のブルーシールでした

意気揚々とテイクアウトしたのですが、家（自転車で8分ほど）に着くまでに溶けてしまいそうで、店の外の隅で立って食べるはめになってしまいました。シークワサーの酸味が効いていてとても美味しかったです。立ち食いが恥ずかしくて急いで食べたせいで頭がキーンとなりました。今度は人気1位のアーモンドピスタチオを食べたいと思います。

【参考資料】

- ・ N's cafe サイト <https://ns-cafe-cafeteria.business.site/#details>
- ・ N's cafe ツイッター <https://twitter.com/nscafe12>
- ・ N's cafe インスタグラム https://www.instagram.com/tsukuba_nscafe/
- ・ ブルーシールサイト <https://www.blueseal.co.jp/stories/>

■【番外編】洋食屋の「コスモス」（つくば市天久保2丁目11-19）

番外編として、洋食屋の「コスモス」(9)にあるクリームソーダ（提供は5月から10月に限っているようでした）をご紹介します。個人的に気になっていたお店でした。店内の雰囲気はレトロな感じで(10)、ポークカツやサーモンテリヤキなど豊富なメニューが並びます。



9 洋食屋「コスモス」の外観



10 昔ながらの懐かしい雰囲気が漂ってました

せっかくなのでクリームソーダに加えて、料理も注文してみました。スパゲティの欄にお店の名前と同じ「コスモス風(山菜)」・680円というメニューがあり、気になったので注文してみました。付き添いで来てくれた後輩はサンドウィッチの「ハムと野菜」というシンプルネーミングにツボってこちらを注文しました。お値段は700円でした。

「コスモス風(山菜)」(11)は、ニンニクが効いていて、山菜に加えベーコンやトマト、きのこなど具沢山の食べ応えがありました。サンドウィッチの「ハムと野菜」(12)も想像していたよりもボリューム満点で、ポテトフライまで盛り付けられていました。



⑪コスモス風（山菜）



⑫ハムと野菜

お待ちかね、可愛い赤いコースターの上に細長い器に入ったクリームソーダが登場しました。お値段は400円です。素敵な雰囲気洋食屋さんでクリームソーダを飲みながら涼めるなんて至福のひと時ですね。



探してみると春日地区や天久保地区など大学近辺にさまざまなひんやりスイーツを食べられるお店がありました。ご紹介できたのは一部ですが、暑さを凌ぎに訪れてみてはいかがでしょうか。

（人文・文化学群 比較文化学類4年 北川瑠菜）

3. つくばにある研究機関へ 地質標本館編



今回も実験植物園シリーズで行こうと思っていたのですが、この猛暑で園内を見てまわる気も起きず。潔く諦めて、代わりに記事のネタになるような場所を探しました。グーグルマップで大学周辺を物色し、白羽の矢が立ったのは地質標本館。洞峰公園の近く、国立研究開発法人産業技術総合研究所（AIST）（以下、産総研）の敷地内にあります。ご多分に漏れずこちらもつくば生活6年目にして一度も訪れたことはなく。元々、実験植物園を特集しようと思っていたのも、「筑波大生としての恩恵の享受」と共に「つくばの未訪の地の開拓」が目的であった為、これは好都合ということで、今回はつくばの穴場スポット、地質標本館のレポートをしていきたいと思います。

そもそも地質標本館とはどのような施設なのか。受付で頂いたパンフレットにはこのように書かれてありました。

「地質標本館では地球と人との関わり合いを理解していただくため、地質調査総合センターの研究活動で得られた成果を、最新の地球科学情報とともに日本の地質、地下資源、海洋の地質、地球環境、火山と地熱、地震と活断層などのテーマごとにまとめて展示しています。

私たちはこれまで、エネルギー・鉱物資源をはじめとして、地球から極めて多くの恵みを得てきました。これによって、巨大な文明社会を築き上げる一方、今日では、地域的な環境のみならず、地球規模での環境破壊をもたらしつつあります。当地質標本館の展示を通じて新しい地球の姿を理解し、同時に“地球をよく知り、地球と共存する”について考えていただければ幸いです。」（参照：<https://www.gsj.jp/Muse/access/pamphlet.pdf>）

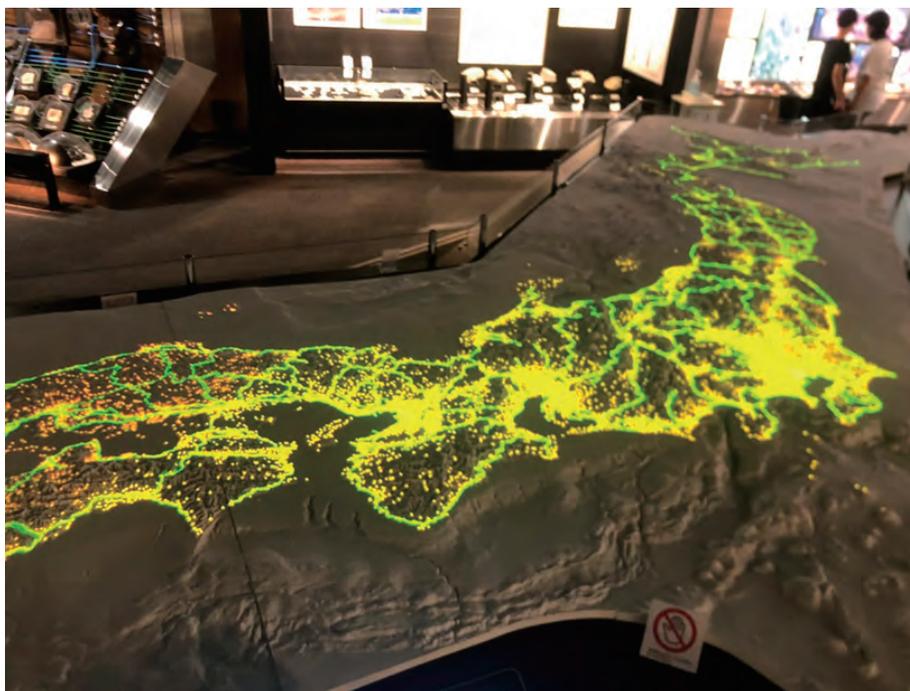
なるほど、地学系の科学館といった印象を受けます。それでは早速行ってみましょう。見学は事前予約制となっており、午前又は午後で選択することができます。筆者は午前で予約しました。桜の自宅アパートから車を走らせ10分ほどで到着。受付で駐車許可証を貰い、館内へ。入館料が無料なのも嬉しいところです。館内に入ってすぐには、様々な種類の世界の岩石がお出迎えしてくれます。



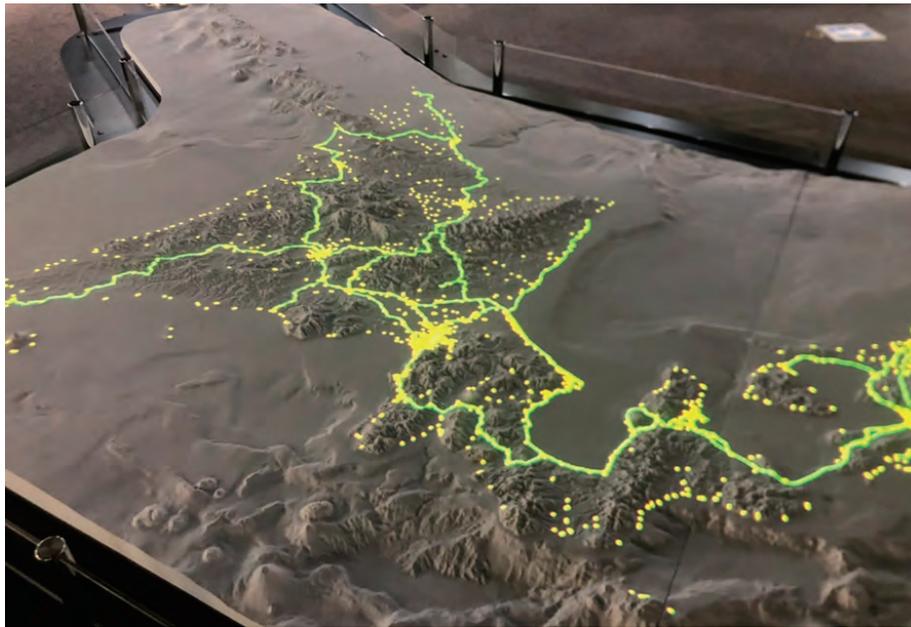
館内は4つの展示室に分かれており、それぞれテーマが分かれていました。第1展示室は『地球の歴史』。地質年代や地質図の歴史、化石や恐竜の足跡などパッと目を引くものが多い印象。なかでも中央に位置する日本列島3Dプロジェクションマッピングは流石の存在感です。



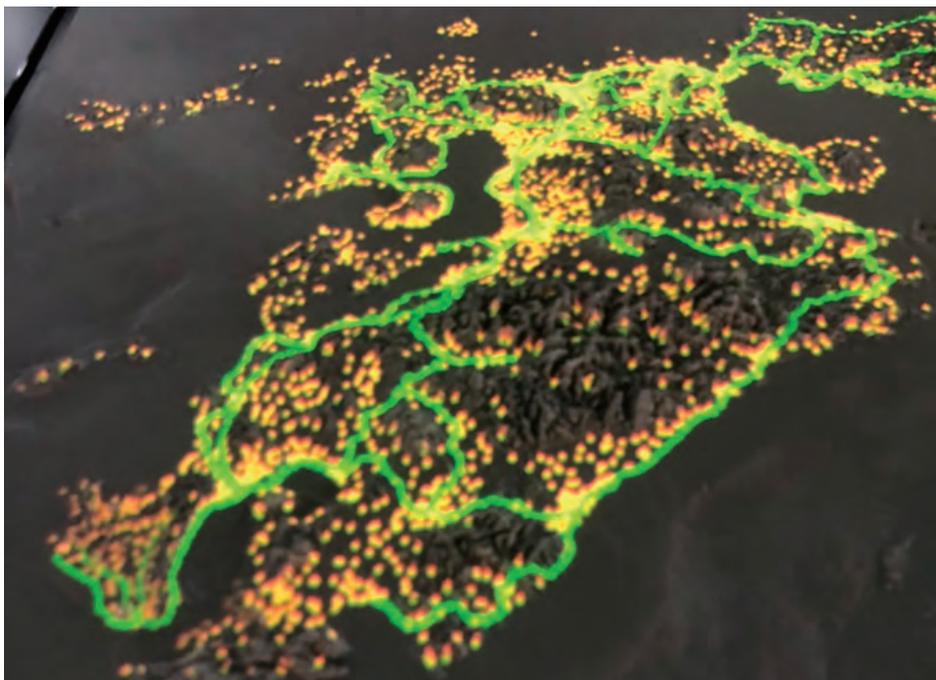
このプロジェクションマッピングは、地質などさまざまな条件をモニターで選択することで日本列島全体に映し出すことができるものです。例えばこちら。



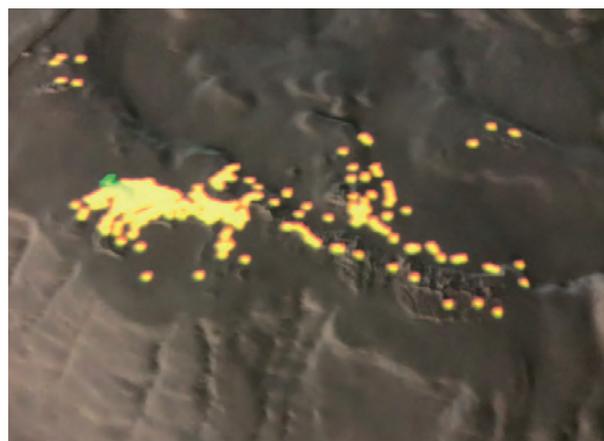
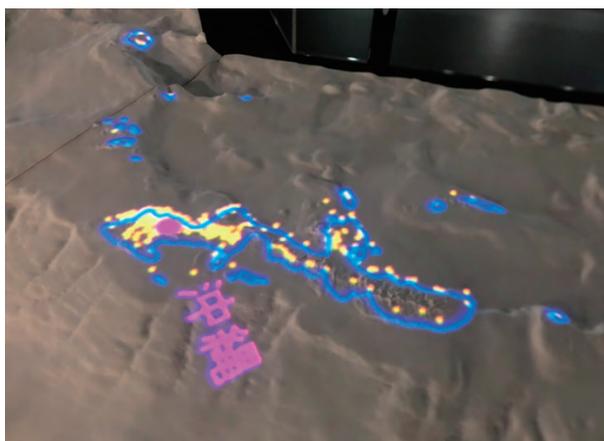
これは、鉄道路線（緑の線）と学校（オレンジの点）のマッピングになります。スマホのカメラの調子がすこぶる悪く、見えづらくて申し訳ないのですが、綺麗に鉄道路線沿いに学校が密集するような形で建っており、面白いですね。例外もあります。



例えば北海道。札幌や函館などは分かりやすく鉄道路線と学校に相関関係を見出せます。海沿いには鉄道が走っていませんが北海道の輪郭を辿るように学校が点在しています。筆者自身あまり北海道にも地理にも詳しくないのですが、海沿いに鉄道が走っていないことに「何かありそう」だなと感じます。詳しい方いたら是非教えていただきたいものです。



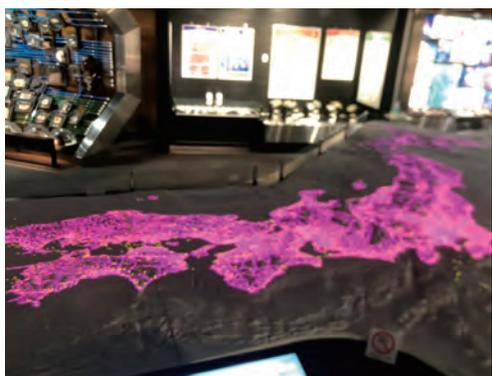
こちらは九州ですが、このように鉄道路線と学校に相関が低い地域もチラホラ。鉄道があまり発達していない・山間の場所が少ないようなところだとそのような傾向が見られるのかな…などと考察しました。こちらも詳しい方、ぜひ。



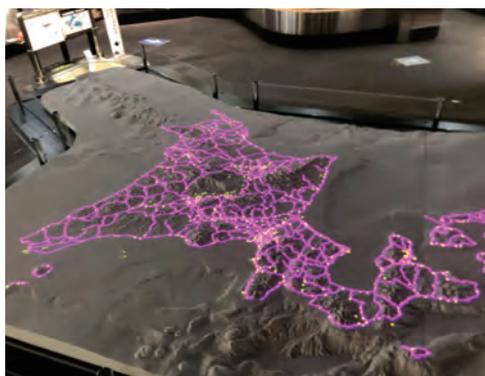
沖縄の輪郭と学校のマッピング

鉄道（モノレール）路線が一つしかない沖縄の路線と学校のマッピングが個人的にツボだったのでこちらもどうぞ。

ちなみに、主要道路（ピンクの線）と学校のマッピングもしてきました。（画像①②③）味のあるカメラと相まってカオスな絵になっています。そして、北海道と九州は綺麗に伏線を回収していました。「電車がなければ車で行けばいいじゃない。」といった感じですね。



画像①



画像②



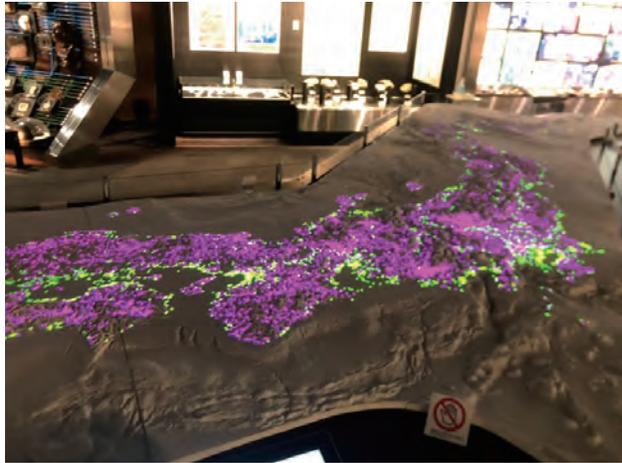
画像③

お察しの通り、すっかりこのプロジェクションマッピングに心を奪われてしまった筆者は様々な組み合わせでポチポチしていました。ここで興味深かったものをもう一つ。

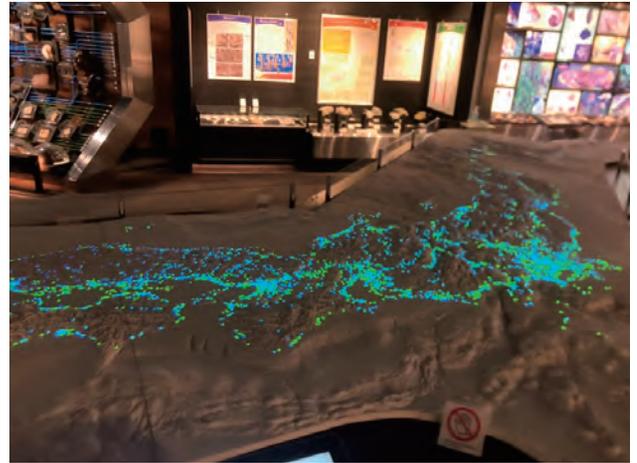
緑の点が物流拠点で、水色の線は高速道路です。



これは物流拠点と上水道（ピンクの点）（画像④）、下水道（水色の線）（画像⑤）を組み合わせたマッピングです。上水道は物流拠点以外の地域に散らばっており、下水道は物流拠点と地域の範囲が重なっていました。そこに相関関係があるの…！？と驚きました。こちらも詳しい方に聞きたいです。



画像④



画像⑤

恐竜の足跡コーナーでは、自分の足のサイズと足跡を比べることができます。その横には物差しが。

恐竜の腰の高さは足のサイズの約4倍なのだそう。筆者も測ってみましたが、私は腰の長さが足のサイズの3.75倍となりました。皆様はどうですか？



次は第2展示室『生活と鉱物資源』に移動します。移動途中にある螺旋階段はアンモナイト階段と名付けられていてそのユーモアにときめきました。こちらでは、様々な鉱石や鉱物、海洋地質や海底堆積物など海にまつわる展示がされていました。

誕生石を作ってみよう、という誕生石の組成を選ぶクイズコーナー（画像⑥）があったので挑戦してみました。3月生まれの筆者はアクアマリンを選択。（画像⑦）さあ、答えはどれでしょうか。

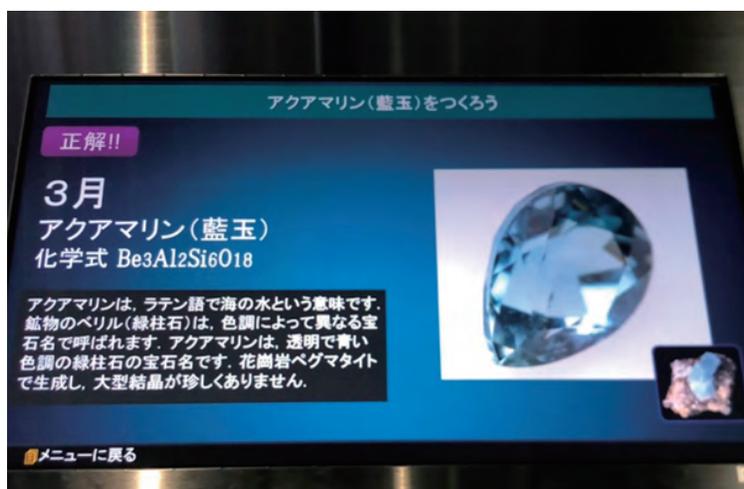


画像⑥



画像⑦化学式の問題です

答えはベリリウムでした！正解！

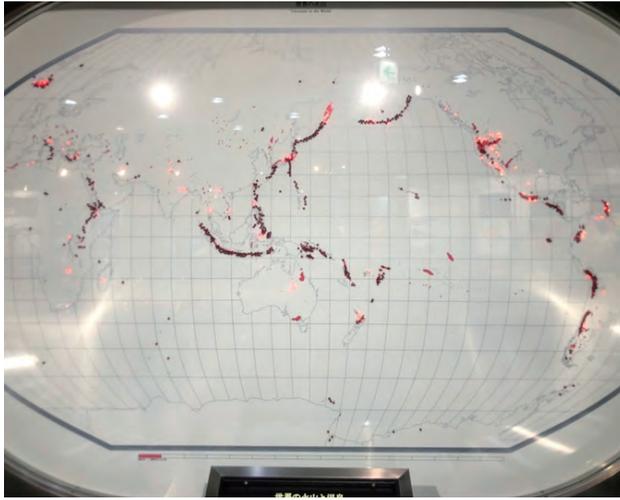


画像⑧

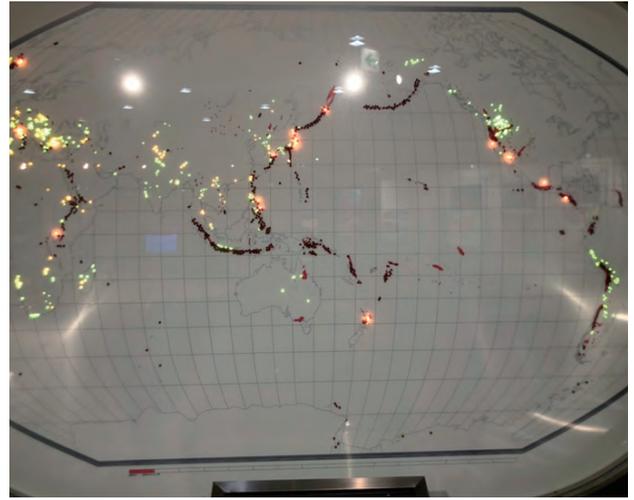
キラキラした鉱物標本たちを眺めながら、次は第3展示室『生活と地質現象』へ。地震や火山の噴火といった現象と生活の関わり合いについての展示が主にされています。岩石薄片の技術を使って作られた昆虫の作品も展示されていました。（画像⑧）岩石薄片とは、岩石を約30マイク

ロメートルにまで薄く平らに研磨したもののことだそうです。岩石薄片を偏光顕微鏡で覗くと鉱物の色や模様が見えるようで、そこから鉱物の種類や形状を調べることで岩石の成り立ちが分かるのだそうです。

世界の火山分布の展示では、世界の温泉の分布も一緒に確認できます。地熱帯や火山と温泉の相関関係を感じ、なるほどとなりました。



火山と温泉の分布（見づらくてすみません）



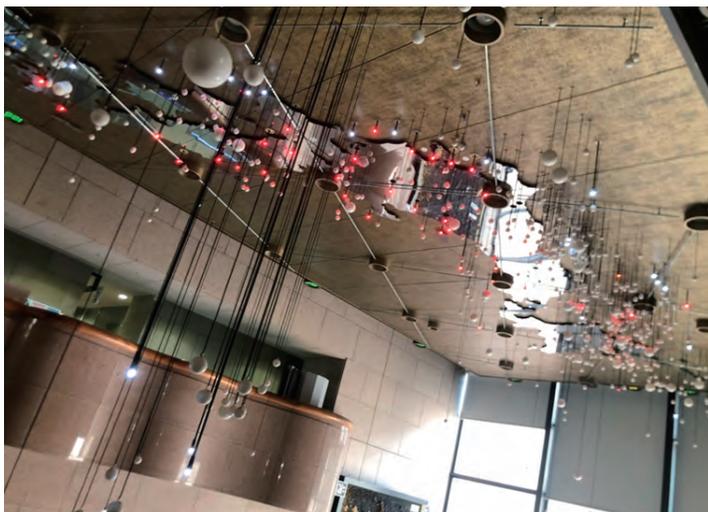
地熱帯と温泉の分布

最後は第4展示室『岩石・鉱物・化石』です。その名の通り、岩石や鉱物や化石がショーケースに並べられていました。石に疎い筆者は、並べられている石が全て同じように見えてきてしまいました。詳しい人の解説を聴きながら見て回りたいですね。

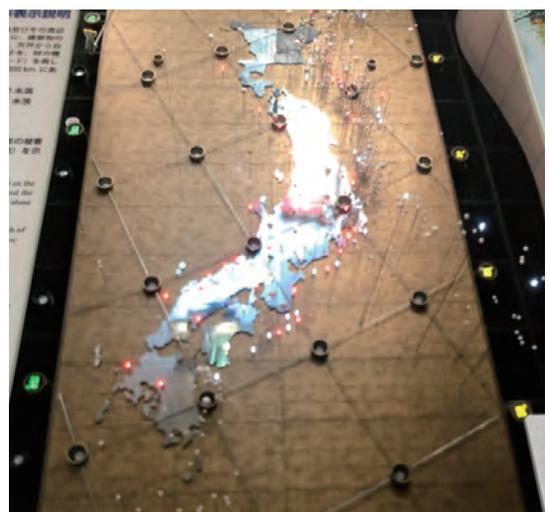


第4展示室内、アンモナイトの展示

展示室外にも多くの展示物が飾られていました。中でも目を引いたのは、日本列島周辺の震源分布です。天井に吊るされている日本地図と球体たちを、地上に設置されている鏡を通して見るというものです。面白い仕掛けに心躍りました。



二階から見るとこんな感じ



鏡に映すとこのように

今回は地質標本館についてレポートしました。盛りだくさんの内容で、これで無料なのはお得感があります。満足して帰ろうとした矢先、夏休みの期間中に開催されている、つくばの研究機関をまわる謎解きゲームのポスターを見つけました。



「暗号だらけの招待状」と題したその催しは、サイエンスツアーバス1日乗車券を使ってつくばの研究機関を巡り、施設内にある謎を解くといったもののようです。この記事が配信される日は、イベントは終わってしまっているかもしれません。もしよければつくばに足を運んでみてくださいね。

※写真は全て地質標本館にて撮影し、掲載許可を頂きました。

(人文学学位プログラム博士前期課程2年 磯良春佳)

4. 筑波大生による筑波大生のためのフリーペーパー「ツクマガ」は今?! 人手不足と資金不足乗り越えて



「ツクマガ」。この完成度でなんと無料。

■存続危機?

「悩みは人手・資金不足」。

筑波大学新聞 369 号 (2022 年 4 月 5 日発行) (※) に掲載された、筑波大生による「学内誌」特集で、そう答えた団体がありました。筑波大生による筑波大生のためのフリーペーパー「ツクマガ」を発行する学生団体「C4」です。

「筑波大生のための発見マガジン」をコンセプトとするツクマガは、年 2 回 (春と秋) 発行されています。内容はさまざまで、直近の 23 号 (2022 年 4 月発行) では「人と人」をテーマに、競技ダンスのパートナーやお笑いコンビ、カップルへのインタビューが掲載されていました。また、学園祭実行委員会室など学内の特定の場所にノートを設置し、交換日記をしてもらったものを掲載するなど、筑波大生の人となりが見える企画が満載です。

「ツクマガ」の発行財源は、誌面に掲載する広告費。しかし、そんな広告費もコロナ禍で飲食店を中心に断られるなどして減り、資金は底をついていました。加えて、筑波大学新聞で取材した時 (3 月時点) では、一番上の代が引退したら部員がたった 1 人になってしまう、という状況でした。そこで、今年 2～3 月には、ツクマガ存続のためのクラウドファンディングを行い、目標金額の 75% にあたる 45 万 2500 円を集めました。筑波大学新聞 369 号では、当時の代表の「ツクマガを存続させられるよう力を尽くしたい」という言葉で記事が締めくくられました。

あれから約 4 か月、現在のツクマガはどうなっているのでしょうか。

取材日に、編集会議があるからと指定された場所は天久保 2 丁目にある、めんとるステーションつくばのフリースペース。あれれ? 筑波大学新聞で取材した時は、春日 4 丁目にアパートを借りてそこを拠点に活動していたはず……。そう疑問を持ちながら向かいました。

■存続したい！

現在の代表は、かつて「たった1人の部員になってしまう！」と危惧されていた片山周香さん（比較文化学類2年）。あれから5人の新入部員が入り、休学していたメンバー1人も継続を決め、現在は計7人で活動しています。

「前の事務所（借りていたアパート）からは撤退しました。節約できるところから、節約しています」。今は、誌面に広告を掲載しているめんとるステーションのフリースペースの一角を借り、毎週月曜日に集まって編集会議や作業を行っています。発行費用はギリギリ広告費で賄えるほど。

2003年から続く「ツクマガ」ですが、前述した資金と部員の不足から、昨年度いっばいで活動を終了する方向で話が進んだ時期もあったのだとか。そんな中、片山さんの「続けたい。存続のためにできることはしたい」という言葉から、存続の方向に舵を切ることになったそうです。そして現在、11月に行われる雙峰祭での発行を目指し、準備を進めています。



めんとるステーションで作業中

■アートな雑誌

円錐のチョコレート菓子「アポロ」が一つ、宙を舞っている……。 「宇宙へ行こう」と題されたツクマガ17号（2019年4月発行）の表紙デザインです。ツクマガ部員の中で最も人気が高く、新入生の加々美杏子さん（芸術専門学群1年）も入部を決めた動機の一つとのこと。「芸専生として憧れです。私もツクマガで素敵なデザインをしたいです」と目を輝かせていました。

所属部員の多くが芸術専門学群の学生だったツクマガは、デザインに強いこだわりを持っています。編集長の他に、アートディレクターという誌面上のデザインを総括する担当がおり、2人のGoサインが出て晴れて発行となります。

22号（2021年11月発行）の誌面デザインを担当した世良優月さん（芸術専門学群2年）は、「描いたデザインが、アートディレクターの指摘でやり直しになったこともあります。芸専ならではの謎のこだわりがあるんですね。上手くできたと思っていたので、その時は本当にピリピリしましたが笑」と振り返ります。「それだけデザインに熱心なんですよ、そういう雰囲気、私は好きです」と片山さん。

学生同士でも、はっきりと指摘し合う。それがよりよい誌面を作る秘訣なのかもしれません。



ツクマガ表紙 中央が17号「宇宙へ行こう」

■安定の1年に

雙峰祭の時に発行予定の24号は規模を縮小して発行し、来年4月発行予定の25号で通常版発行を目指しています。片山さんは「事務所も引き払い、人数も少ない新しい体勢。今年は新しい形で立て直す1年として、今後も存続していけるようなサイクルを確立できたと思います」と先を見据えています。

新入部員の和田海音さん（知識情報・図書館学類1年）は、「自分の面白いと読者の面白いを合わせたような取材をしていきたいです」と意気込みを語っています。

20年近く続くツクマガは大切に受け継がれ、また新たな一步を踏み出そうとしています。

参考

筑波大学新聞369号（2022年4月5日発行）……※

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/369.pdf>

これまで発行されたツクマガは、以下のサイトから閲覧することができます。

<https://c4jiten.wixsite.com/tsukumaga>

（人文・文化学群 比較文化学類3年 山田優芽）

5. 子どもたちと SDGs を学ぶ 県南生涯学習センターでイベント実施



暑い日が続いていますが、みなさんはいかがお過ごしですか。つくばの夏は相変わらず暑いです。熱中症にはくれぐれもお気を付けください。一方で、暦の上ではもう秋ですね。夜になるとどこからともなく鈴虫の音色が聞こえ、秋の気配を少しずつ感じる今日この頃です。

さて今回は、私を含め4人の筑波大生で実施したイベントについてご紹介します。イベントは7月31日に茨城県県南生涯学習センターで行いました。タイトルは「障害者スポーツを通して筑波大生とSDGsを学ぼう」です。詳しくは後ほど説明しますが、子供たち（主に小学生）が障害者スポーツを体験することで障害のある人の視点を学んでもらい、最終的に障害の垣根なく誰もが楽しめるスポーツを考えてもらうというプロジェクトです。スポーツは心身を豊かにすることからSDGsの目標3の「すべての人に健康と福祉を」につながると思います。また誰もが楽しめるスポーツを開発することは目標10の「人や国の不平等をなくそう」につながると考えています。イベントのタイトルの通りですが、障害者スポーツを通して子供たちに楽しくSDGsを学んでほしいと思っています。

これは、私がT-ACT(つくばアクションプロジェクト)で申請して採用されたプロジェクトです。T-ACTは、学生の「やってみたい」を応援する筑波大独自のプログラムです。学生が企画立案をする「T-ACTアクション」と、教員が企画者となる「T-ACTプラン」、そして地域の活動団体が学生ボランティアを募る「T-ACTボランティア」の3種類からなり、私の企画は「T-ACTアクション」に該当します。「子供たちにSDGsを広めたい」。その思いから企画を立案しました。筑波大学体育系の大林太朗先生と山口拓先生にご指導を仰ぎ、同じ思いを持って集まった学生メンバーたちと話し合いながらプロジェクトの案を完成させました。企画は今年の春に申請し、「T-ACTアクション」として承認されました。イベントは、私たちの活動を知ってお声掛けしていただいた、茨城県県南生涯学習センター主催の地域活性化イベント「つちうらであそぼ・まなぼ」のブースの一つとして開催させていただきました。

今回のイベントは、事前予約制にしていました。開催日の7月31日までに5組の家族から予約がありましたが、当日実際に来ていただいたのは2組でした。新型コロナウイルスの第7波の急拡大もあるため、参加を取りやめられたのかなと考えています。実は私も、イベント当日はオンラインで参加しました。数日前から喉に痛みを伴う違和感があり、コロナの可能性があったからです。熱などはなかったのですが、仮にコロナでイベントに参加してしまった際のリスクを考慮し、泣く泣くオンライン参加を決断しました（結果的に幸いコロナではなく、今は回復しています）。イベント開催中は、会場と自分の家をウェブ会議システム「Zoom」でつなぎ、イベントの様子をチェックしたり子供たちと話をしたりしました。子供たちは、私が映るパソコンの画面に興味津々でとても面白かったです。

イベントは主に三つの構成からなります。まず初めは、2種類の障害者スポーツを実際に体験することです。イベントではボッチャとゴールボールを行いました。みなさんは、これらのスポーツをご存じですか。パラリンピックなどで見たことがあるという方もいらっしゃるかもしれませんね。詳細は省きますが簡単なルールを説明します。ボッチャは、①まずジャックボールという白いボールをコート内の適当な位置に投げます。②次に、2チームでそれぞれ赤と青のボールをジャックボールに向かって投げます。③最終的に、ジャックボールに一番近かったチームが勝ちとなります。重度の脳性麻痺の方や、同程度の重度の障害が四肢にある人のために開発されたスポーツで、子供から高齢者まで誰もが楽しめます。次に、ゴールボールについて説明します。ゴールボールは目隠しをして行う団体競技で、鈴入りのボールを互いのゴールに転がし合って得点を競います。視覚に障害のある人を対象に開発されたスポーツで、筑波大出身の高橋利恵子選手は東京パラリンピックで銅メダルを獲得されました。

イベントでは、子どもがプレーしやすいようにルールを改編しました。例えば、ゴールボールについては、鈴入りのボールを使わない代わりに、プレイヤーの後ろに指示役を一人置き「○○君右！」のような指示を出すことにしました。最初は慣れない様子でしたが、段々と笑顔になっていった子供たちの姿が画面越しからも伝わってきました。

各スポーツが終わった後は、子供たちに感想と、そのスポーツがどのような障害のある人向けに開発されたスポーツなのかを質問し、考えてもらいます。子供たちは、ボッチャを通じて上肢あるいは下肢に障害のある方の視点を学び、ゴールボールを通して視覚障害のある方の視点を学ぶこととなります。更に、ゴールボールでは指示役を体験するので、どうしたら的確に伝えられるのかというスキルも学ぶことができます。

説明が長くなりましたが、イベント構成の二つ目が、二つのスポーツを通じて、誰もが楽しめるスポーツを子どもたちに開発してもらうことです。一つ目において、子供たちは上肢あるいは下肢に障害がある人の視点と視覚障害のある方の視点、そして指示役のスキルを学びました。今度は、学んだ知識を生かしてもらおうという試みです。とはいっても、いきなりスポーツを開発することは難しいことです。大学生のメンバーが、アドバイスをしながら一つのスポーツを考えていきます。今回のイベントでは、「視覚障害のある方でもできるようにボッチャを改編する」という案がでました。早速、目隠しをした状態でボッチャをやってみます。みなさんも大体検討がつくかもしれませんが、目が見えない状態でどこにあるか分からないジャックボールに向かって球を投げるのは至難の業です。そこで一人の子どもが考案したのが、指示役を使ってボールの位置を目隠ししているプレイヤーに伝えるということでした。ここで、ゴールボールで学んだ指示役のスキルが役に立つわけです。「右斜めに3mくらい！」というように、距離や方角を伝える場合もあれば、ジャックボール付近で拍手をしたり音を立てたりして聴覚を刺激して相手におおよその位置を伝える場合もあります。そもそもジャックボール自体を音が鳴るボールに変更し、プレイヤーが投げる前に鳴らすことで位置を知らせる方法も案として上がり、「どうすれば一番わかりやすく伝わるか」をテーマに子どもやその保護者、大学生がさまざまなアイデアを出しながらプレーしました。全員が生き生きとした空気感で、私も画面から抜け出して今すぐ混じりたいと何度も思いました。

そしてイベント構成の最後が、SDGs 教育です。二つのスポーツを体験してもらい、さらに誰もが楽しめるスポーツを開発してもらった子どもたちに対して、「実は、あなたたちが行ったことは SDGs につながっています！」と伝えるために行います。私はその担当だったので、パワーポイントを駆使しなんとか子どもたちに伝えることができたと思っています。

イベント終了後、参加した子どもや保護者からは、「目隠しする経験がなかったから貴重な体験だった。障害のある方の気持ちがわかった気がした」や「障害を持った方と一緒にスポーツするのも考えたいなと思った」などさまざま感想をいただきました。当初、SDGs を学んでもらうために映像コンテンツの制作を考えていましたが、子供たちが楽しく体験しながら学んだ方が良いというアドバイスを先生方からいただき、今回のスポーツ体験型イベントに変更しました。このような感想をいただき、あらためてやって良かったと強く思います。

今後もイベントは実施していく予定です。今回のように、茨城県県南生涯学習センターのイベントの一つとして行うだけでなく、小学校の放課後学童などでも行えたらと考えています。また、同センターの方と話し合い、地域の高校生たちとイベントを実施していくことも検討中です。また、動きがあったらあらためて報告させていただければと思います。応援よろしくお願いします！

(人文・文化学群 比較文化学類3年 天野隼太)



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございました！編集長の北川です。うだるような暑さの続く今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回の記事の中で私は「首にかけるタイプのあの流行りの扇風機がほしいな」と書いていましたが、暑さに負け、とうとう購入しました。いろんな工夫をしながら暑さを凌いでいきたいものです。

今回の夏号は、中央図書館貴重書展示室や地質標本館の魅力を紹介するもの、筑波大付近のひんやりスイーツ特集、筑波大生によるフリーペーパー「ツクマガ」の今を追ったもの、子どもたちとSDGsを学ぶイベント実施のルポと盛りだくさんでお送りしました。つくばの「今」を知る一つのきっかけとなれば幸いです。

(人文・文化学群 比較文化学類4年 北川瑠菜)





令和4年

11月5日(土)

開催!!



ホームカミングデーとは・・・

卒業生・修了生と教職員の交流を深め、本学の一層の発展に資する目的で、卒後20年（医学類は卒後18年）を基準とした筑波大学・図書館情報大学の卒業生・修了生及びそのご家族を本学にご招待いたします。思い出深い母校で、しばしの安らぎを分かち合い、懐かしいひと時をお過ごしただけですと幸いです。

令和4年度のホームカミングデーは、11月5日（土）に開催する予定です。今年度は、3年ぶりとなる対面での開催に向けて、現在準備中です。

また、ご卒業の対象年度に関わらず、どなたでもご覧いただけるよう、YouTube等でオンライン配信も実施します。詳細が決まり次第、HPでアナウンスします。お楽しみに!!

第25回ホームカミングデー HP <https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/>

(※新型コロナウイルスの感染状況等によっては、内容が変更となる場合があります。)

第24回ホームカミングデー オンライン配信の様子（コロナ禍によりオンラインのみで実施）

<https://www.youtube.com/watch?v=imexdp5ZFIQ>



(筑波大学クイズ 筑波ふしぎ発見!!)



(東京オリパラメダリスト大集合 SP)

Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて Twitter、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



- 🌀 筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>
- 🌀 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>
- 🌀 日経 VR「オープンキャンパス360〜筑波大学〜」 https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/



Tsukuba FutureShip (筑波大学) Facebook



TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) Twitter



全部買える！筑波大学公式グッズのオンラインショップ

筑波大学公式グッズ・オンラインショップ「TSUKUBA-SHOP」では、Tシャツ、パーカー、トレーナー、スウェットパンツ、マグカップ、キーホルダー、ストラップ、トートバッグなど様々なアイテムをご用意しています。ぜひ「日常生活」や「思い出」、「プレゼント」にどうぞ！

TSUKUBA-SHOP

<https://tsukuba-shop.com>

ここで買えます！  

筑波大学公式グッズ
オンラインショップ

ネックレス
(15mm)

マグカップ

かぶりパーカー
(五三の桐)

Tシャツ
(五三の桐)

スウェットパンツ
(五三の桐)

モータータグ
キーホルダー

ステンレスミニボトル

キャンバストートバッグ
(IMAGINE THE FUTURE.)

売上の一部は
筑波大学基金に
寄附され、
学生支援のために
役立てられます！

- 編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL：029-853-2030 FAX：029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。 ©2022 University of Tsukuba.

「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから
筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』(tsukuba.ac.jp)

配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします
登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>